

A photograph of a modern interior space, likely a living area or a studio. The room features a large, multi-paned skylight at the top, providing natural light and a view of a city skyline. The walls are white, and the floor is made of light-colored wood. A wooden staircase with a glass railing is visible in the foreground. In the background, there is a large window looking out onto a garden with various plants. The overall atmosphere is bright and airy.

建築人

12

2016

大阪ホンマもん



建築が幸福な形で誕生し、長く親しまれるために必要な条件とは何なのだろうか。今年十月、鬼頭梓が手がけた図書館と共に、対面にある山口県立美術館を再訪する機会があり、適切なメンテナンスを施されて竣工時の清新さを湛える空間に魅せられながら、そのことについて考えさせられた。

山口県立図書館の竣工から二年後の一九七五年、鬼頭梓は、同じ山口県から美術館設計の打診を受ける。鬼頭は、図書館を手がけたものの、もともと山口とは無縁の人間であり、設計者として選ばれるために提出する必要がある指名願いも出していなかったという。そんな中、「美術館建設の予定があり、設計者を選択する段階にあるが、仕事のやりくりがつきそうならば経歴書を送ってほしい」と山口県の建築課長から突然の電話を受けたのである。その後、順調に話は進み、鬼頭は設計を手がけることになる。建物の竣工後、鬼頭は感慨を込めて次のような文章を書き残している。

「山口県は希有のクライアレントであった。でき上った建築の良し悪しは別として、そこには良い建築が生れるために必要な条件はすべて揃っていた。ひとりの建築家とその事務所とが、情熱をそそぎ精魂を傾けて仕事に打ち込むことのできる場所が整っていたのである。いや、否応なく私たちをそのようにひき込んでゆくものがあったといったほうがよい。(中略)設計が開始されるために必要な県側の準備は、文化課と建築課の手でほとんど完璧といつてよい程になされていた。美術館の運営方針は周到な検討を経て確定しており、その内容は具体的で説得力を持って居た。それに基づき規模その他の建築的要求も十分煮つまつ

ていたし、美術館建築に関する膨大な資料も集められていた。そこには長年にわたる準備の積み重ねの歴史があったのである。」「(鬼頭梓「山口県立美術館が生まれるまで」『新建築』一九八〇年一月号)

鬼頭がこう記したのも無理はない。そこには、「地方文化の育成」に最大の重点を置くという確固たる運営方針があり、すでに常設展示室の核となる収蔵品として、過酷な抑留経験をもとに「シベリアシリーズ」

記憶の建築

松隈 洋

山口県立美術館 1979 年
伸びやかに広がる内外空間の妙味



南東の前面広場から見る外観



萩焼の陶壁のある吹抜けのロビー

聞き、本を読み、資料をあさってみても、その多様な見解や異なる主張は、そのそれぞれに何がしかの根拠があって、それゆえにますます分からなくなつてゆく始末であった。(中略) そんな中で前川先生を訪ねて教えを乞うた時、いわれた言葉は今も忘れない。『物(館蔵品)はあるのか? 人(学芸員)はいるのか? それならば何も教えることはない。その物と人に聞くことだ。私は物もなく人もいない美術館の設計にいつも苦勞して来たのだ』と。私は目を覚ま

と呼ばれる名作を描き続けた画家・香月泰男の作品群が確定されていた。また、学芸員の中核となる人材も企画段階から計画立案にかかわっていたのだ。それでも鬼頭には不安に思うことがあったという。同じ文章に、次のような言葉も綴られている。

「私にとって美術館の建築は経験のない世界だったし、経験がないということは判断の基準を持たないのに等しかった。主だった美術館を見、その学芸員の言葉を

れる思いがした。」

鬼頭は良き師を持っていたものだと思う。また事務所の先輩格の大高正人から、「問題は沢山抱え込めば込むほどよい、そして悩んだだけ建築は深くなる」と教えられたことも忘れてはいなかった。こうして鬼頭は、「物と人に聞くこと」に徹して、学芸員や建築課の人びとと打合せを繰り返して、生前のままの状態で残されていた香月泰男のアトリエや萩焼の窯元を訪ね歩いたという。

敷地として与えられたのは、県庁へと続く主要道路と小高い丘陵に挟まれた南北に細長い山口大学の移転跡地だった。幸いにも、敷地の北側は美術館の建設に併せて都市公園として整備されることになった。そこで、鬼頭は、西側の丘陵の緑を背景に、建物を常設と企画の複数の展示室と収蔵庫や講堂を小気味よく分散配置させながら、中央の正面奥に二層吹抜けのロビーを確保し、その外側に広がる芝生の屋外展示場の庭園へと続く伸びやかな空間構成を試みたのである。巧みなのは、前面広場に面する建物の二階に常設展示室を設け、その下にピロティを置くことで、正面外観に寡黙な表情と陰影を与えつつ、エントランスホールから奥のロビーへ、さらに庭園へと続く空間のダイナミックな展開が意図されていることだ。同時に、エントランスホールからロビーを経てそれぞれの展示室へと至るアプローチを、すべて緩やかな斜路とすることによって、庭園のまぶしい緑が飛び込む大らかな空間を味わいながら、ゆったりとした気持ちで美術に接する雰囲気をつくりあげている。また、展示室の間にはトップライトから自然光を取り入れることによって、空間にリズミカルな変化も与えられている。そして、「広く透明な山口の空」と歴史を前にして、外壁に特注の煉瓦を積み、時間に耐える凜とした穏やかな表情を付与したのである。ここを訪れて感じるのは、鬼頭が山口の人と土地に出会い、深く対話した喜びのような透明感だ。それは、この美術館がこれからも親しまれながらそこに在り続ける原動力となるに違いない。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士(工学)。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

団体が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、営利を目的としていない活動。
助成額 1件の助成額は30万円を限度
※募集案内は12月号に同封しています。

「モダニズム建築紀行 1940～50年代 日本の戦前期・戦後の建築」

建築人に連載されている、松隈洋先生ご執筆の「記憶の建築」に、その後の経過などを追記加筆された単行本が発刊されました。
戦前期から1980年代にかけて建てられた日本各地のモダニズム建築の中から、未来に語り継ぐべき88件を時代別に2冊に分けての刊行です。1冊めでは、日本の戦前期・戦後1940年～50年代の建築を収録。様式建築の末尾を飾る東京駅から1950年代の建物42件を紹介します。
書名 「モダニズム建築紀行 1940～50年代 日本の戦前期・戦後の建築」
著者 松隈洋
発行 六耀社
仕様 A5判・240頁
価格 2,600円(税別)
詳細はHPをご覧ください。
<https://www.rikuyosha.co.jp/products/detail4462/>
2冊めは「1960～80年代 日本の高度経済成長期から超高層ビル群の時代の建築」です。
詳細は以下のHPをご覧ください。
<https://www.rikuyosha.co.jp/products/detail4469/>

事務局年末年始休暇のお知らせ

12月29日(木)から1月4日(水)まで休ませていただきます。

本会の催し参加問合せ・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

「申請者向け」建築物省エネ法の詳細説明会

建築物のエネルギー消費性能の向上を図るため、「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律(建築物省エネ法)」が平成27年7月

8日に公布されました。
建築物省エネ法では、大規模非住宅の省エネ基準適合義務(建築基準関係規定)等の規制措置を平成29年4月施行予定としています。
本説明会では、建築物省エネ法の規制措置によって手続きが変わる建築確認及び完了検査に重点を置いた説明を行います。
開催時期 11月15日～平成29年3月10日
時間 13:30～16:30
開催場所 全都道府県全150回
※開催スケジュールにつきましては下記ホームページをご参照ください。
内容 建築物省エネ法の概要説明
建築物省エネ法に係る適合義務(適合性判定)・届出マニュアルの説明
設計図書記載例・工事監理マニュアルについて
参加費 無料
申込期間 平成28年10月11日～開催日前日まで
※FAXの場合は、開催日3日前まで
但し、定員になり次第締切
参加方法 下記HP、FAX又は電話により参加申込を受け付けています。
問合せ Tel.0120-771-266
Fax.0120-252-936
HP <https://krs.bz/kentikubutsu-shoeneho/m/shinsei-shousaisetsumei>

第26回「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール

将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりの推進を目的としてコンクールを実施します。
設計課題は、大阪府営堺宮山台4丁住宅の集会所です。
本住宅は、堺市の泉北ニュータウンにあり、泉北高速鉄道「泉ヶ丘駅」から北西に徒歩約20分の場所にあります。
昭和40年代に建設された本住宅では、現在、第1期の建替え工事を進めており、順次、住棟の建設を進めていく予定です。課題である集会所は、第3期工事で建設する計画となっています。
本住宅の北側、東側、南側は、戸建て住宅が建ち並び、西側は緑道を挟み、緑地に面しています。計画地は本住宅の東側に位置し、周囲から開けた場所であるとともに、道路を挟んで戸建て住宅地に面しています。また、計画地は前面道路より1m程度高いレベルにあります。計画地は本住宅地と周囲の住宅地を合わせた宮山台4丁の中心に立地し、住宅の内からも外からも見通しの良い位置にあります。
このようなロケーションを踏まえ、主として本住宅の居住者が利用し、近隣住宅地の人々も訪れる「多様なコミュニティ活動の場」をテーマとした集会所の提案を募集します。
応募資格 大阪府内の工業高等学校、短大・専門・専修・各種学校等の建築関連学科に在籍する学生
入選作品 グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品2点、佳作3点、奨励賞3点程度
申込応募登録期間 受付中～12月8日(木) 17時まで
作品受付 平成29年1月5日(木)～12日(木)
詳細につきましては、HPをご覧ください。

http://www.pref.osaka.jp/kokeh_keikaku/asunaro/index.html
問合せ 大阪府住宅まちづくり部公共建築室
計画課計画グループ
Tel.06-6210-9787

東大阪市の準防火地域指定拡大について

東大阪市では、個々の建物の防火性能を向上させることによる火災に強いまちづくりを進めるため、準防火地域の指定を拡大します。告示日は、一部地域を除き12月1日を予定しています。詳細の内容については、東大阪市都市計画室のHPをご覧ください。
問合せ 東大阪市建設局都市整備部都市計画室
Tel.06-4309-3211
HP <http://www.city.higashiosaka.lg.jp/0000014920.html>

Others

その他のお知らせ

講習会「ラチスシェル屋根構造設計指針」(大阪開催) 12/9

日本建築学会では最新の研究成果を整理・検証し、「ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」を刊行する運びとなりました。
本指針は、従来の鋼構造関連規準・指針を基本として、ラチスシェル屋根構造特有の座屈性状や地震応答性状に対応した設計手法の指針を与えるものであり、下部支持構造を含め同種構造の設計指針として整備するとともに、体育館等の耐震診断・改修や免振振構造の適用法も示したものです。本指針の内容を説明する講習会です。
主催 日本建築学会構造委員会シェル・空間構造運営委員会
日時 12月9日(金) 13:00～17:00
会場 大阪科学技術センター4階
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 100名
参加費 本会会員 12,000円(テキスト代含)
テキスト ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説
問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538

「年賀状、絵葉書に描かれた懐かしい明治・大正・昭和の建築の展示と有名建築家、建築史家の年賀状展」 12/10～17

東京駅舎、旧帝国ホテル、天王貯水池、旧大坂市役所、大阪刑務所など年賀状、絵葉書に

描かれた懐かしい明治・大正・昭和の建築の展示です。
期間 12月10日(土)～17日(土)
会場 堺市立東図書館
(南海高野線北野田駅前)
観覧自由
問合せ 明治建築研究会
Tel.090-4289-1492

IPサロン BIM session-1 2017.01.20 インテリアデザインにおけるBIM活用法 次世代への生き残りツールと必須のスキル 1/20

インテリアデザインにおいても設計の質的向上と効率化にBIMが不可欠なツールになりつつあります。第1回目の今回は、店舗のインテリア空間における二次元、三次元の相互関係、作図からプレゼンテーション、環境シミュレーションまでわかりやすく解説し、これまでの設計のプロセスと比較した特性、有意性について理解を深めます。
主催 (一社)関西インテリアプランナー協会
日時 1月20日(金) 17:45～20:00
会場 TOTOテクニカルセンター大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8
御堂筋ダイワビル2階
講演 岡田真一(岡田真一設計室)
BIMの魅力と導入 グラフィソフジャパン(株)
モデレーター 徳岡浩二
最寄駅 地下鉄本町駅
定員 80名
申込締切 1月10日(火)
(但し定員に達し次第締切)
参加費 本会会員1,500円 一般2,000円
問合せ (一社)関西インテリアプランナー協会
Tel.06-6266-5735

建築物の防火・避難対策と建築基準法、消防法における防災関係規定講習会(大阪開催) 3/7

日本建築防災協会では、建築物防災週間協賛行事として、例年、本講習会を開催しています。近年の火災事例をもとに、建築物の防火・避難対策の考え方について、菅原進一東京理科大学教授の講演と、国土交通省担当官から建築基準法における防災関係規定と防・耐火構造・材料について、また総務省消防庁担当官から消防法における消防用設備の設置・維持に関する規定について説明を伺います。
主催 (一財)日本建築防災協会
日時 3月7日(火) 13:00～16:45
会場 大阪府建築健康会館
大阪市中央区泉町2-1-11
定員 150名
参加費 7,000円(テキスト代含)
申込締切 2月28日(火) ※郵送は必着
但し定員に達し次第締切
問合せ (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画案の審査、評価等 (対象建築物)
- 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成28年度建築士定期講習 1/16、3/21 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成25年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程

1/16(月) 定員300名 会場コード5C-04
3/21(火) 定員300名 会場コード5C-54

会場 1/16(月)、3/21(火) 大阪国際会議場

時間 9:25～17:00

申込必着日 12/12(月):講習日1/16(月)
2/14(火):講習日3/21(火)

※各回定員に達し次第、受付を終了します。

受講料 12,960円(消費税含)

申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

大阪府知事指定講習 平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 1/26 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価す

るのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがって、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務にご活用ください。

日程 平成29年1月26日(木)

時間 10:00～16:30

会場 大阪府建築健保会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 120名(定員になり次第締切)

受講料 会員6,000円 会員外8,000円

テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

大阪府知事指定講習 平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》 12/8・2/9 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。)

日程 ①12月8日(木)
②平成29年2月9日(木)

時間 10:00～15:50

会場 大阪府建築健保会館6階ホール

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

定員 各120名(定員になり次第締切)

受講料 会員5,000円 会員外9,000円

テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 12/16、1/19、2/22、3/23 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、講習では建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 12/16(金)、1/19(木)、2/22(水)、3/23(木)

時間 9:00～17:00

会場 大阪府建築健保会館

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

定員 各回90名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円
郵送・窓口申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページからお申込下さい。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

建築士会会員受講料全額補助 大阪府住宅省エネルギー設計者講習会 12/7～29.1/24 CPD各6単位

国土交通省は2020年までにすべての建築物に対し新省エネ基準適合を義務付けることを決定しました。それに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得をしていただく講習会で、今年度が本講習会5ヵ年計画の最終年度です。

日程 12/7・12/20・1/13・1/24

時間 9:45～16:45(各回共)

会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11

定員 各回120名

受講料 会員 本会が全額補助
会員外1,000円(テキスト代含)

※修了証発行費用は別途必要。

申込 専用のWEBからお申込みください。
[省エネ講習会](#) [検索](#)

※詳細は今年号同封のチラシをご覧ください。

建築士法にもとづく建築技術講習会 その設計、大丈夫ですか? 建築デザインに潜む日常生活上の危険 1/25 CPD3単位

高齢者や障がい者、子どもたちの転倒・落下・衝突など日常災害の原因は、仕上げ材やディテール、人間の行動法則や心理に対する理解不足など、設計者に問題がある場合が多く、設計者や施設管理者への訴訟リスクも高まっています。本講習会では、日常災害の発生リスクの実例紹介や、危険の回避などについて解説します。

日時 1月25日(水) 13:30～16:55

会場 大阪府建築健保会館

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

内容 事例にみる危険なデザインの共通点と安全対策、ビル管理業務における利用者の安全対策、日常災害に対する設計者・施設管理者の責任はどう問われるか、質疑応答

定員 100名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

建築士法にもとづく建築技術講習会 漏水させない基本と新技術 1/30 CPD3単位(予定)

漏水は建築物における最も起こりやすい不具合の一つです。本講習では、漏水によるトラブルを防止するための納まりを解説すると共に、防水材料の適切な選定方法、防水の新しい技術についての説明を予定しています。お申し込みの際に質問を提出して頂ければ、講習会の中で可能な限り回答いたします。

日時 1月30日(月) 13:30～17:00

会場 大阪府建築健保会館

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

内容 漏水不具合防止について、防水材料の選定と新しい技術、シーリング材料の選定と次世代の高耐久シーリング材、

質疑応答

定員 100名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

第61回大阪建築コンクール募集 1/16～31

本コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品設計者の本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者を表彰するもので、今年度第61回を迎えます。渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者を表彰します。

審査委員

委員長 遠藤秀平(神戸大学大学院教授)

委員 越智正一
(大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長)
阪田弘一(京都工芸繊維大学准教授)
下山 聡(下山建築設計室)
鉾井修一(京大大学名誉教授)

応募資格(応募作品の設計者)

大阪府知事賞部門:本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

渡辺節賞部門:本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者で完了検査済証発行日に39歳以下の者

※両部門共建物の種類・規模は問わない

建築位置 近畿二府四県

竣工年月日 2012年1月1日から2016年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建物

応募期間 1月16日(月)～1月31日(火)

応募料 本会正会員 1作品につき20,000円
本会正会員外 1作品につき40,000円

※応募詳細は本号同封の第61回大阪建築コンクール応募要項をご覧ください。

平成29年在阪建築15団体合同新年交礼会 1/4

毎年恒例の在阪建築15団体による合同の新年交礼会です。

日時 1月4日(水) 15:00～16:00

会場 シェラトン都ホテル大阪「浪速の間」
大阪市天王寺区上本町6-1-55

会費 3,000円

申込締切日 12月2日(金)

※会費を添えて12月2日(金)までに本会事務局までお申込ください。12月5日(月)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願い致します。

大阪地域貢献活動部会 平成29年度助成対象活動募集

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづくりなどの地域貢献活動に対して、活動費の助成などを行います。

募集期間 平成29年2月28日(火)まで

対象とする活動 原則として建築士と地域住民等で構成する

会長動静

- 10/24 和泉市長面談
- 10/27 近畿建築士会協議会
- 10/28 日本建築家協会全国大会式典
- 10/29～11/2 香港工業総会訪問
- 11/ 4 日本建築士会連合会国際委員会
- 11/ 7 高石副市長面談
泉津市都市政策部長面談
- 11/11 貝塚市長面談
運営委員会
- 11/12～13 長野県建築士会訪問
- 11/16 理事会、正副会長会議
- 11/18 泉南市長面談
- 11/21 建築4団体会長会議
- 11/22 守口市長面談



辻和泉市長(左)



植田高石副市長(左)



藤原貝塚市長(左)



竹中泉南市長(右)



西端守口市長(右)



重里泉大津市
都市政策部長

運営委員会

消費者団体との意見交換会

11月18日に関西消費者連合会、消費者情報ネット、全国消費者生活相談員協会関西支部、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会西日本支部の4団体代表者と、本会の岡本会長及び副会長・担当理事が出席し、消費者相談の現状等について意見交換を行いました。冒頭に説明した、昨年度の本会建築相談室に寄せられた消費者からの相談状況は、相談件数が608件あり、建築リフォーム、品質、瑕疵の相談が多く、特に施工者とのトラブルが目立ちます。

消費者団体からは、リフォーム発注時に口頭による約束だけで契約書を交わさずトラブルになり、出席者が所属する市町村の消費生活センターなどに持ち込まれる事案等の報告があり、その対応策について意見交換しました。また、建築士は消費者から見ると遠い存在で、リフォームなどの相談や設計を建築士は引き受けてくれないのではという意見もあり、消費者が気軽に建築士に相談できるパイプ役として、本会としてもさらに努力する必要性を痛感しました。

建築表彰委員会

第36回大阪都市景観建築賞受賞作品が決定

第36回大阪都市景観建築賞の現地審査と最終審査を11月22日に実施しました。現地審査は書類審査により選出された12件について、久審査委員長をはじめとする7人の審査員により実施しました。終了後、引き続き本会会議室において最終審査を行い、現地審査の状況を踏まえて討議した結果、大阪府知事賞、大阪市長賞、審査員特別賞、緑化賞、建築サイン・アート賞のそれぞれ1作品、奨励賞の5作品を選定しました。今後、入賞作品集を作成し、報道発表します。

社会貢献委員会

建築士会マンションアドバイザー登録要項を作成

本会のマンション維持管理支援分科会は、マンション管理組合からの修繕計画や建替え等の相談等に対応できる建築士を、大阪府建築士会マンションアドバイザーとして本会に登録する要件等を定めた登録要項を11月度の理事会に諮り承認されました。本分科会では定期的にマンションアドバイザー養成講習会を実施し、実務経験などの一定の要件を満たす講習会修了者の希望により、アドバイザーとして本会に登録し、活動していただきます。今後、講習会等の準備が整い次第受付を開始し、登録者を本会ホームページに掲載し公表する予定です。

建築表彰委員会

第7回建築甲子園全国選手権大会大阪予選審査会を実施

日本建築士会連合会が主催する「第7回高校生の建築甲子園」の大阪予選審査を11月14日に実施しました。この事業は、全国の高校生・専門学校生を対象とし、今年度は、「地域のくらしー空き家を活かすー」のテーマで、若い世代のワクワクするようなアイデアを募りました。大阪では3校から7作品の応募があり、審査の結果、大阪市立都島工業高等学校の【国際力と人間力と空き家力】と、堺市立堺高等学校の【空き家を利用したインフォメーションセンター】の2作品が選出されました。今後、日本建築士会連合会の全国選手権大会で審査し入賞者を決定します。

運営委員会

在阪建築15団体午餐会の開催

10月25日に御堂筋ガスビルにおいて、在阪建築15団体の会長・支部長等幹部が一堂に会する午餐会が開催されました。会議では、1月4日に開催する29年新年交歓会の協議と、各団体の情報交換を行いました。本会の岡本会長は、在阪建築団体の後援を受け、今年4月～5月に開催した横文彦氏の作品展・講演会への協力のお礼を述べ、本会は今後も公益法人として建築相談、耐震、防災など、建築士のネットワークを活かして、市民の安心・安全を守る社会貢献活動を引き続き取組んでいくことを報告しました。

■おわびと訂正

11月号掲載の竹綱富田林副市長と高林大阪狭山副市長の写真を取り違えて掲載しました。関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げますと共に、改めて写真を掲載いたします。



高林大阪狭山副市長(左)



竹綱富田林副市長(左)

第 59 回建築士会全国大会「大分大会」に参加して

日程：平成 28 年 10 月 22 日（土）～ 23 日（日） 参加者：3180 名（大阪 63 名）

曇り空の伊丹空港を発ち、大分空港に着陸する頃には、飛行機の窓に大粒の雨。あいにくの天候の中、会場の別府市ビーコンプラザで登録をすますと既に 11 時を回っており、急ぎ第二部途中からの木造建築フォーラム会場に入った。東大農学部教授と木造の構造設計事務所主宰という二つの顔を持つ稲山正弘氏のお話と作品を拝聴できた。一般都市木造建築を、大断面集成材や耐火木材ではなく、住宅用プレカット材を使って非耐火構造とし、ルート 2 で設計する。そうすることで、RC や S 造にコスト的に対抗できる建築とし、木造のすそ野を広げていくという視点には同感を覚えた。また何よりもその作品群が魅力的であった。東大腰原教授も言及されたが、木造建築は日本の森林資源保護、サステナブルな地域循環社会の構築という問題と表裏一体であることも改めて認識させられた。

午後からの記念講演では、いいちこ醸造元である三和酒類名誉会長の西太一郎氏と 30 数年にわたりいいちこの広告企画デザインを担当されているアートディレクターの河北秀也氏のお話を伺った。商品企画、パッケージデザイン、テレビ CM、ポスターはもとより、季刊雑誌「iichiko」の発行まで全てをまかされ、いいちこを文化の域にまで押し上げたデザインの力に心を動かされた。大会式典は大分県建築士会井上会長が教鞭をとられる地元日本文理大学チアリーディング部のダイナミックな演技で幕を開け、最後に井上会長から次回開催の京都府建築士会衛藤会長に大会旗がしっかりと手渡された。雨が小康状態となった翌日曜日は、エクスカッション「おおいた建築巡礼」に参加し、磯崎新の建築を堪能。特に初期の作品岩田学園には建築家の強い思いが其

濱田 徹（副会長）



処此処に満ちあふれ、磯崎建築の原型を見た思いがした。まさに磯崎新は大分のガウディだ。久々の深い感動を胸に大分を後にした。



長野県建築士会との交流会～真田丸ゆかりの地を訪ねる研修旅行～

日程：平成 28 年 11 月 12 日（土）～ 13 日（日） 参加者：22 名

錦秋の上田城址は西陽に照らされ、輝くような美しさで私達を迎えてくれました。出迎えた長野県建築士会の温かい笑顔と専門ガイドの案内で、東虎口櫓門から真田井戸、西櫓を廻り、真田丸大河ドラマ館へと向かいました。「真田丸」の世界を体感させる展示を巡りながら、二度の上田合戦において徳川軍を撃破した壮絶な歴史を持つ地で、大阪と長野の運命的な繋がりを感じさせられました。ここで最初に手渡されたのは、歓迎の言葉を表紙にまとめられた訪問先全てのパンフレットと建築関係資料。その厚みは二日間の充実した視察内容を予見させるに充分でした。ホテルでひと休みして懇親会場へ。両士会の会長から交流の経過と真田丸繋がりのもたらした縁、情報交換の意義が語られ、美味しく華やかな夕べになりました。翌朝は、近代産業遺跡で

ある、国指定重要文化財、笠原工業常田館製糸場見学から始まりました。木造瓦葺五階建ての多窓式繭乾燥・保管倉庫や長野県最古の RC 造の繭倉庫を見学しました。次に訪れた信州最古の国宝禅寺、八角三重塔のある安楽寺では、古来寺院建築の三様式の特徴について上田市教育委員会の和根崎剛さんから詳細な解説をして頂き、重厚で優美な魅力を堪能しました。真田家の菩提寺である長谷寺や歴史館を訪ね、信州そば蔵で昼食後、幸村の兄、信之の築いた城下町、松代へと向かいました。佐久間象山の生誕地でもある閑静な佇まいのまちなみを散策し、真田家宝物館、真田邸、松代へ引き継がれた真田家菩提寺の長國寺で、日光東照宮の意匠を彷彿とさせる荘厳な真田信之の公御霊屋や真田幸村、大助（幸昌）父子の供養碑にお参りし、真田の郷をあとにし

徳岡浩二（理事、事業委員会委員長）



ました。紅葉に彩られた真田家の足跡をたどり、充実した旅の帰路、バス内でお土産のお酒を交し、やがて笑い声が寝息に変わっていくのでした。感謝は次回の大阪でまたお返しする事を誓いつつ。



上田城址での集合写真



真田家菩提寺の長國寺

守口市のまちづくり 防災機能の向上と公共施設の再編

文 石井 秀敏

はじめに

守口市は、大阪府の北東部、淀川の左岸に位置し、大阪市、門真市、寝屋川市、淀川を挟んで摂津市に隣接する面積二二・七一㎢、人口約一四万人の都市です。

本市の広域幹線道路としては、東西に大阪と京都を繋ぐ国道一号、主要地方道京都守口線、阪神高速道、南北には、中央環状線、近畿自動車道などがあり、交通の要衝として、市内外へのアクセスが充実しています。

また、鉄軌道等も、大阪市営地下鉄谷町線・今里筋線で大阪市内方面や摂津市方面へ、大阪モノレールを利用して大日駅から北摂方面・大阪空港へ、京阪電気鉄道では大阪市内や枚方・京都方面へと交通の利便性に恵まれています。昭和二年（一九四六年）に守口町と三郷町が合併し、府内で一番目の市として市制施行以来、本市の人口は増加を続け、その後、昭和三二年（一九五七年）に庭窪町と合併し現在の守口市に至っています。そして、高度経済成長期に大都市近郊の地理的条件等から急激に増加し、昭和四六年（一九七一年）には最高の一八万七千七九一人に達しました。その後、減少傾向にはありますが、全国でも有数の人口密度の高い都市として進展しており、近年は、大規模マンションの建

設や宅地開発等で住環境が整備されてきています。そして、京阪守口市駅前には、百貨店やホテル、体育館、京阪電車の高架下に並ぶ店舗等があり、大日駅前には、大型商業施設等の充実した施設が揃っており、依然大都市のベッドタウン的性格を持った街です。

本市は、松下電器や三洋電機などの工場城下町として栄え、地区によってはその工業都市的性格の名残が残る街並みも併せもつ都市として発展を続けています。

平成二八年度は、市制施行七〇周年という節目を迎え、去る八月二八日に行われました市制施行七〇周年記念守口市花火大会は大盛況でした。そして、旧三洋電機守口第一ビルを防災拠点にふさわしく、人と環境にやさしい、市民に開かれ親しまれる新庁舎として、庁舎移転を行いました。他にもイベント等が多い年ですが、本市が更に安心して生活できる防災機能をもった都市としての取り組みも動き出す年度であり、ご紹介させていただきます。

1. 防災での取り組み

前段の市の紹介にもあるように、松下電器・三洋電機などの工場の立地により、八雲東町や大日町では高度経済成長期中、工場社員寮などの長屋住宅や文化住

宅を中心に小規模単位で開発がされ、木造賃貸住宅（文化住宅等）や町工場がひしめき合い、スプロールの的に市街化が進み、その結果密集した市街地が形成されました。

また、本市の東部地区では、昭和初期に一部耕地整理が実施されたものの、高度経済成長期に基盤整備が伴わないまま長屋住宅や文化住宅、狭小敷地の戸建て住宅の建設など、時代の経過とともに、市街地がスプロールのに開発されたことで多様な街区形状がなされ、特にこれらの地区では、大震災等が起きた場合に、消防活動困難区域が多く、甚大な被害が発生する恐れがあります。

以上の「大日・八雲東町地区」「東部地区」については、住宅等の密度が高く、不燃領域率も主要幹線道路沿いや駅周辺以外では低い値を示しています。地区内には、まだまだ燃えやすく老朽化した木造住宅や狭あい道路が多く、公園や広場などのオープンスペースも少ない状態にあります。

そして、市内道路総延長に占める四m未満道路の延長割合も約一二・四八％となっており、狭あい道路の多いこれらの地区では、巨大地震が発生したおりには火災が燃え広がり、建物倒壊による道路の閉塞などで、避難・救助活動等が困難

になるおそれが高く、特に大きな被害が発生するとされており、防災上や居住環境面での問題を抱えております。

今後三〇年以内の発生率が七〇％と想定されている南海トラフを始めとする巨大地震などに備え、地震火災の被害を少しでも低減するためには、これらの地区全体を燃えにくい街にすることが重要です。

地区の課題として、土地利用に応じた整備を行うために、老朽建築物の除却、建物の不燃化、主要生活道路の整備、小公園の整備等が挙げられます。

これらの地区内では老朽木造賃貸住宅等除却助成・木造賃貸住宅等建替助成事業として、対象の建築物の除却や建替えに対して助成を行っており、主要生活道路の拡幅整備も現在進行形で行われ、一定の成果を挙げてきています。

加えて、建築物の建替時の更なる不燃化を推進するため、方策を検討中であります。

本市域は、主要駅周辺などを防火地域指定、その他は淀川河川敷の市街化調整区域を除き、全域準防火地域に指定していますが、準耐火建築物の性能まで求められない二階建てや、一部の三階建ての戸建て住宅等にも防火規制を適用する方策などの検討をしています。このため

には、地区の住民の方々や事業者の皆さんなどのご協力が不可欠です。

また、密集市街地地区に限らず、耐震促進事業として旧耐震基準の木造住宅の耐震診断・設計・改修等の補助金制度も行っております。

近年の実績としましては、平成二五年度では、診断二〇件、改修三件、平成二六年度では、診断二五件、改修八件、平成二七年度では診断一七件、改修九件となっております。年度によって増減はありますが、日々お問い合わせを受けております。各地で地震が起きた際には、多くの方からお問い合わせを頂き、いつ来るかわからない地震と自宅の耐震性について関心を持たれた方も増えていると思います。

補助金はあくまで昭和五六年五月三十一日以前の旧耐震基準の住宅の耐震補強に関する診断・設計・改修のみが対象です。しかし、例えば屋根材が落下しそうなので、屋根だけを改修したいなど、一部分の補修でお困りの方からのお問い合わせも多くあり、耐震改修として工事しても

らわないと対象になりませんと言わざるを得ないため、心苦しいところですが、耐震改修も含め、適切に管理しようという方々の思いを汲んで、多様なニーズにお応えできるような取り組みなどの情報提供ができればと思っております。

2. 市の施設の取り組み

冒頭にも述べましたとおり、平成二八年度は市制施行七〇周年の記念の年でもあり、広く守口市の魅力をアピールする機会と捉え、今年度の市政運営基本方針の中にもありますように、将来の人口減少等に対応し、居住環境や都市機能を誘導する施策等を総合的に推進するための「立地適正化計画」の策定を目指し、様々な公共施設の再編や、まちの魅力の創造を見据え、長期的な視点でのまちづくりのコンセプトや土地利用のゾーニング及び都市機能の最適な配置の検討を進めてまいります。

市内最大の公園である大枝公園はリニューアル工事の最中であります。今までは各施設の効率的な利用や老朽化が課

題であり、公園には市民球場やテニスコートなどのスポーツ施設、遊具や広場などの公園施設がありました。今回のリニューアルで、市民球場は多くのスポーツに対応し、かつ、災害時用臨時ヘリポートとしても活用できる多目的球場として一新され、スポーツ防災公園として市民の活動の場と災害時支援の拠点としてのスペースが確保され、生まれ変わろうとしています。

京阪守口市駅前区域の守口市駅と国道一号を結ぶ都市計画道路「豊秀松月線」では、バリアフリーに配慮したゆとりある歩道を確保し、安全や景観にも配慮した無電柱化に向けて、市の玄関口である守口市核の駅前メインストリートとして整備されます。

学校施設では、市内の小中学校の統合も着々と進み、新たに建設された校舎は、時代のニーズにあった教育施設として、子どもたちの学校生活に寄与しています。

3. 安心と快適なまちづくりをめざして

人口減少や施設の老朽化、地域特有の問題、時代の変化を起因にした地方公共団体の抱える課題やその解決策も、他の自治体と自然と似てくるところがあり、今回ご紹介させていただいた内容は、目新しくも先進的な取り組みではありませんが、長い期間で地道に積み重ね、達成していこうというものです。

多種多様な自治体ならではの課題はどこにでも存在し、誠実に解決していかなければなりません。このような事業の成

功や、日々の事務の課題解決に一貫して言えるのは、住まれている住民の方々、設計や工事に携わっておられる建築士会の方々はじめ事業者の皆様のご協力が必要不可欠であり、今後ともよろしくお願ひいたします。

おわりに

本市の良好なまちづくりの推進や事業遂行にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

住んでみたい、住みつづけたいまちとして、守口市が選ばれるよう、日々邁進いたします。



守口市シンボルキャラクター
もり吉 (もりきち) です！

石井 秀敏

守口市都市整備部建築指導課長

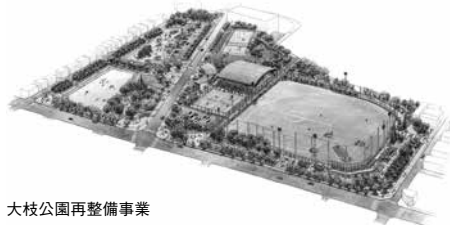
一九五六年 佐賀県生まれ

一九八二年 守口市へ入庁

開発指導行政・建築指導行政
密集事業に携わる
二〇一五年より現職



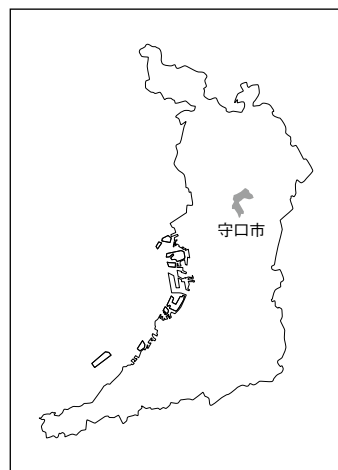
密集住宅市街地整備促進事業地区



大枝公園再整備事業



守口市役所新庁舎





建 築 主：株式会社パイオニア
所 在 地：大阪府東大阪市
用 途：事務所
竣 工：2016.03
構造規模：鉄骨造
敷地面積：294.82㎡
建築面積：198.06㎡
延床面積：1169.68㎡
写 真：エスエス 左海一郎

パチスロ機器の開発・販売を行うメーカーのオフィスビル。ゲームの企画開発を行う部門が入ることからラッキーセブンの7を象徴的にとらえマッシブなかたまりからえぐりとった7つの穴として表現し、開発のスローガンである「楽しさにこだわったモノづくり」を具現化した。外装のリン酸パネルは太陽光の当たり具合や天候により表情を変えつつ、独特の風合いが周辺とは異なる雰囲気醸し出す。夜にはライトアップされた7つの穴が行燈のように浮かび上がる。バルコニーにランダムに設けた吹抜けは必然的にお互いの存在を感じ、家族のようにつながる建物を目指した。

(平井浩之・本家公巳子)



築30年の自動車ショールームの建替計画。自動車という高価な商品を取り扱うカーディーラーを「ブランドショップの路面店」と考え、ファサードをブランドのイメージカラーのブルーで統一し、穿たれた開口はブランドショップの「ショーウィンドウ」となるようデザインした。奥行きのある平面形状を活かし、ショールームを3分割し、奥に進むほどに天井高が低くなる断面計画とし、それぞれの空間に合った様々なサービスを提供することで、自動車を購入するだけでなく、自動車のある豊かな暮らしそのものを提案できる「Car Life Style Shop」となることを目指している。

所在地：大阪府枚方市
用途：ショールーム
竣工：2016.03
構造規模：S造
敷地面積：1,882.25㎡
建築面積：984.82㎡
延床面積：1,165.82㎡
写真：井ノ口洪太



京都八坂神社近く、四条通りに面して建つ、日本初の「漢字ミュージアム」である。通りに対する間口の広さを活かし、展示内容が垣間見える、賑わいあるファサードを目指した。またエントランス前面に前庭を配し、多くの観光客を受け止めながら、通りからもファサード全体が見渡せる構成とした。敷地全体としては、博物館背後に公益財団法人日本漢字能力検定協会本部の他、ふれあいサロン・グラウンドが配置され、中学校跡地利用施設としての近隣施設機能を残している。外観においては、伝統的な祇園の街並みとの調和を意識しながらも、現代的な素材・ディテールにより独自性を持たせることを意図している。(黒川宗範・篠木大輔)

所在地：京都市東山区
用途：博物館・図書館
竣工：2016.04
(2016.06開業)
構造規模：鉄骨造3階建
敷地面積：6,105㎡
建築面積：3,148㎡
延床面積：6,810㎡
写真：エスエス大阪
津田裕之



彦根城南東の護国神社を臨み、県道と市道に短辺で接する縦長の敷地に、“静かな生活”が求められました。両隣の建物が立て込んだ環境の中、隣地境界側に沿って外壁を配置し、その内部に大小の建物ボリュームと中庭が交互に連続する空間構成としました。

2つの空間が交互に連続する事で、縦長の敷地の奥行き感が強調されると同時に、喧騒も徐々に減衰され、静かな空間が得られました。またそれぞれの空間を繋ぐ、奥行き方向に貫通する“路地”は、時にリビングと一体となり空間を拡張し、時に路地自身が幅を広げ中庭との関係性を深めるなど、単なる通過動線を越えた空間体験をもたらしています。（井上久実）

所在地：滋賀県彦根市
用途：専用住宅
竣工：2016.10
構造規模：木造
敷地面積：278.19㎡
建築面積：170.60㎡
延床面積：209.54㎡
写真：雷田英次



本計画敷地は3方が道路に面した敷地であり、敷地の斜めの形状に沿った配置とし、この敷地を最大限生かすプランになるよう計画した。アプローチから90°曲がると玄関へたどり着き、扉を開けるとすぐに、水盤が人を招き入れてくれる。その奥に広がる植栽が、実際の空間以上の広がりを与え、低く抑えた天井高との調和により、落ち着きの中に、ゆとりを有する空間が生まれた。3階部分にはLDKを設け、大開口とすることで、六甲山から淡路島までをパノラマ状に一望できるロケーションを最大限生かした。床を外部まで少し伸ばすことで、感覚的な空間の広がりも誘発している。グレーと白を基調としたインテリアの中に外壁同様、生地色の天井材を用いることで、空間に温かみも生まれ、この住まいの憩いの場として存在している。

所在地：兵庫県芦屋市
用途：専用住居
竣工：2016.07
構造設計：木構造建築研究所 田原
構造規模：混構造
敷地面積：348.05㎡
建築面積：110.55㎡
延床面積：347.81㎡
写真：下村写真事務所



建築場所は奈良県葛城市にある當麻寺の参道に面しており、緑のある前庭を配し、まちに対して馴染ませている。外観は圧迫感をなくし平屋のように見せるため小さな屋根を連続させ周辺に配慮した。プランは玄関を入ると土間空間があり中庭にも連続し、空間の広がりや光や風を取込む構成となっている。土間部分には大きな棚があり、飾棚として使用したり、蔵書の多いご夫婦がそこから取出しすぐ読める空間としての役割もある。家族室と食事室・台所は中庭を介し程良い距離感でつながっている。構造材は国産材を内装材は奈良県産材を使用し、地域循環型住宅としての配慮をした。

所在地：奈良県葛城市
用途：専用住宅
竣工：2016.04
構造規模：木造2階建
敷地面積：198.40㎡
建築面積：90.06㎡
延床面積：122.35㎡
写真：網巻 豊

現存する日本最古の木造幼稚園舎として2007年に国の重要文化財に指定された、大阪市立愛珠幼稚園については、皆さんよくご存じだと思います。この幼稚園が平成26年から耐震改修工事を行っており、全体竣工は29年度末ですが、9月には一部園運営を再開されました。この工事について大阪市教育委員会の植木久さんにご紹介いただきました。

歴史が息づく“現役”幼稚園 重要文化財 大阪市立愛珠幼稚園

植木 久

大阪市教育委員会文化財保護課長。

1953年岡山県生まれ。1980年九州芸術工科大学（現九州大学）芸術工学専攻博士課程前期終了。

同年（財）大阪市文化財協会、1993年大阪市教育委員会文化財保護課主任学芸員、2014年より現職。

1. 愛珠幼稚園の創立

大阪市の中心部、中央区北船場の地に愛珠幼稚園はある。周囲を高層ビルに囲まれ、都心部にエアポケットのごとく重厚な瓦葺きの大屋根が存在感をはなっている。江戸時代、この地域には懷徳堂、適塾、梅花社などの著名な学塾があり、わが国を代表する町人学者を輩出した。その高度な学問水準と、江戸にはない自由な気風は特筆すべきことといえる。船場地域のひとたちは余暇時間に学塾で学問をし、新しい知識を得ることを喜びとした。

愛珠幼稚園が明治一三年にわが国最初の幼稚園としてこの地に誕生したことは、このような学問隆盛の気風と密接に結びついたものである。北船場地域の人たちが西洋の進んだ教育事情を学び、早くから幼児教育の必要性を感じていたということである。幼稚園を設立し豊かに発展させた幼児教育史上の先駆的意義は大きいといえよう。

現在の園舎は三代目として明治三四年に建設された。二代目園舎は鴻池家の持家であり通常の木造町家（商家）であったため、幼稚園としては使いにくいものであった。そのため関係者が集まって園舎の基本計画を検討し、幼稚園の主席保母の案が原案となった。これを大阪府技手で学校建築を多く手掛けていた中村竹松が設計図としたものである。

2. 愛珠幼稚園園舎の特徴

敷地の周囲は鯨子下見板張の高塀をめぐるせ、南側に正門を置く。門を入ると前庭をはさんで北側には玄関があり、園長室（もと応接室・事務室）棟と、その北側に遊戯室棟の巨大な屋根が続く。遊

戯室の北側は中央を園庭とし、これを取り囲むようにその西側と北側に保育室棟があり、東側には和室がある東棟が位置する。北西隅には昭和二年に建設されたRC造の倉庫が建つ。ここには当初は木造の土蔵があった。

遊戯室を天井の高い大空間としていることは、二代目園舎の不便さを解消するためである。小屋組みをキングポストトラス構造とすることにより、柱のない大空間を実現させた。周囲の庇よりも高い位置に窓を連続させることは、採光と通風を意識してのことである。床は二重の構造となっており、間におがくずが充てんされているのは、振動防止と床下の冷氣、湿気対策である。天井は格天井で、中央および四隅に取り付けたアールヌーボー風のシャンデリアは当初のものという。北、西、南の三面に鉄製の二階式ギャラリーがめぐっているが、これは大正一四年に新たに設置されたものである。



遊戯場。木造の建物に鉄製のギャラリーが追加された。両隅の通し柱は、構造補強として平成元年に設置したもの。

便所は保育室の並ぶ西棟の中央やや南寄りにある。平面的には西棟と一体化しているが屋根は別構造とし、西棟との間に隙間をあけている。便所としての衛生面と、通風、採光に配慮したものである。



便所棟の屋根



建物廊下とレベル差のない園庭



改修の済んだ幼稚園全景



遊戯室ではイルムラーピアノを用いた演奏会なども開かれている。

本稿は『月刊文化財』No.614 平成二六年一月号（文化庁文化財部監修、第一法規（株）発行）に掲載された同名の文章に、その後の経過等をふまえ、加筆、修正したものである。

園庭は土を盛り、高さを周囲の廊下と揃えている。園庭にはもとは木煉瓦が敷かれてあった。園児が園舎と園庭を行き来する際に怪我をしないように、早くもバリアフリーの考え方がとられていたということである。

東棟は二室に分かれている。北側の部屋は畳敷きであり、その北側の築山を取り囲む庭を望むような配置になっている。琵琶床や水屋もつくられており、本格的な茶室としてのしつらえをもっている。

3. 耐震補強工事の内容

現園舎が完成してすでに一一〇年余りが経過した。そのため平成二三年度に建物の耐震調査をおこなったところ、大地震時（震度六強〜七）には柱の内法曲げ破壊と規定以上の変形が生じ、倒壊の恐れがあるとの結果であった。地盤の液状化への対策も必要とされた。また床下の複数の個所に蟻害、蒸れ腐れ、沈下等が確認された。今後も幼稚園として使い続けるために、地震等非常時の安全性を高める必要があった。

そのため平成二六年度から耐震補強工事（防災設備工事を含む）を開始した。当初の計画では工期は三年の予定であったが、解体をすすめると、床下の蟻害や蒸れ腐れが当初の予想を超えて進んでいることがわかった。また倉庫棟についてはコンクリートのアルカリ化のみをおこなう予定であったが、壁面の内部仕上げ材を撤去したところ、建物全体にわたって豆板（ジャンカ）が著しく、鉄筋も多数が露出し腐食していることが明らかとなり、根本的な対応が必要となった。そのため工期を延長し、平成二九年度末の竣工を予定し現在も継続中である。

主な工事の内容は以下の通りである。

- ・各建物の天井裏に水平構面ブレースもしくは水平構面合板補強をおこなう。
- ・玄関西の現園長室、東棟南室はか一室に立体フレーム補強（四隅柱の内側に構造柱を立て、天井裏を鉄骨で結ぶ）をおこなう。

- ・遊戯室二階ギャラリー床部に柱の曲げに対する補強として鉄骨梁補強を、同東壁の面外座屈対策として鉄骨バットレス補強をおこなう。

- ・西棟、北棟の保育室を区切る主な壁面に合板補強をおこなう。

- ・地盤の液状化対策として建物床下のほぼ全域にベタ基礎を打設する。

- ・園庭にある廻旋滑り台の転倒防止のため基礎を増設する。

- ・西側高塀の道路側への転倒防止策として、基礎の増設および園舎柱との鋼棒による緊結をおこなう、などである。

これらの工事をおこなうにあたっては、建物の内外観にできるだけ影響が及ばないようにした。

一方倉庫棟に関しては、豆板（ジャンカ）対策として躯体コンクリートへセメント系補修材を注入したうえで、構造補強として建物内部に構造壁の増し打ちをおこなうこととした。また一・二階の床スラブはつくり替え、地下階の床スラブは厚さを増して耐圧版とする。補強壁の設置にともない倉庫内の面積は小さくなるが、内装は以前と同様とする、というものである。

4. 伝統が息づく愛珠幼稚園

愛珠幼稚園の園舎のつくり方が園児の教育環境に配慮したものであり、格式高い伝統様式によって建築されていること

はこれまでにみえてきた通りである。

一方、園には明治初期からのたくさんの方の教材、遊具、玩具等がきちんと整理され、保管されているが、これらは単に倉庫に収納されているというだけではなく、日常的に教育に用いられている。東棟の和室では、床の間に年代物の雛飾りや武者飾りを飾り、また四季折々の掛け軸などを掛け、毎月、〃お茶遊び〃と称したお茶会を、卒園生の指導によりおこなっている。遊戯室にかけられている大時計は、明治三四年に（つまり園舎が完成した時に）アメリカから購入されたものであり、現在も変わることなく時を刻んでいる。世界の名器とよばれたイルムラー社（ドイツ）のピアノは明治四二年に購入されたものであり、明治二四年製造の前川製風琴（オルガン）もともに現役である。園庭に置かれている重要文化財指定の廻旋滑り台（昭和六年）は園児に特に人気がある。

愛珠幼稚園においては、歴史と伝統は精神的な意味合いというだけでなく、日々の幼稚園生活の一部として、生きていくのである。それらを包み込む器が園舎であり、創建以来変わることなく幼稚園として活用されていることは、極めて大きな意味のあることといえる。園児は工事期間中は近くの小学校に間借り生活を余儀なくされていたが、父兄ともども伝統ある園舎に誇りと愛着をもっており、一日も早くの帰園を心待ちにしていた。そのため一部の工事は現在もおこなわれているが、本年九月から、工事が終了し装いを新たにした遊戯室や保育室など主要な施設を用いての教育が再開された。これまでと変わることなく、今日も遊戯室には園児たちの笑顔があふれている。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十一月十六日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三四名 監事一名

(1) 一〇月の当期経常増減額は、収入七、三二四、五七二円、支出一三、三〇七、〇六〇円、差引△五、九八二、四八八円で、本年度累計の収支差引は一九、六六五、五五一円を報告して承認されました。

全体の執行状況は全体予算の約六割に達していますが、特に公益目的事業で赤字にならないよう努力が必要としました。

(2) マンションアドバイザー登録実施要項(案)建築士会アドバイザーの登録に必要な要項として、資格要件の二年以上の実務経験、三棟以上の設計等が適当か否かは、運用して修正を図ることとしました。また有効期間経過後の再登録時の講習受講は必要ないことを確認して同規定案を承認しました。

(3) 本会の建築士事務所登録について
本会からの相談に対して、府は事務所登録を行った本会で法令等規定に違反することが生じた場合は本会を土法に基づいて処分することになり、また下請けとして建築士に実務させることは建築士の自主自立性を脅かすことになるとの判断から、登録をすることは再考願いたいとしました。府は依頼者と本会及び実務者の契約における立場を明確にすることで、本会と依頼者が設計等の契約をしても土法の規定に違反するものではなく、コンサルタントとしてのマネジメント業務として本会が報酬を得ることを妨げるものではないとの見解です。具体的な契約方法について、契約モデル案を府に示して協議を継続することとしました。

建築相談室から八

空き家の相談

文 橋本頼幸

大阪の住まい活性化フォーラム

大阪府建築士会は、「大阪の住まい活性化フォーラム」の正会員として、建築相談室で「空家の総合相談」を行っております。このフォーラムは、当会をはじめ、大阪府、大阪府住宅供給公社、事務所協会、建築防災センターなど二四団体が正会員として加入しており、特別会員として大阪府内の市・町と都市再生機構の三五団体、協賛会員として大阪ガスや建材メーカー、不動産、建設業者、専門業組合、各NPOなど六〇企業団体が加入して構成されています。フォーラムでは、中古住宅流通リフォーラム市場の活性化を図ることを目的としていますので、府民や事業者などへ関係する情報の提供や環境整備、方策の調査研究及び提言を行っています。

今回は空き家に関する相談をご紹介します。

空き家を処分するにはどうしたらいいか？

昭和五三年(築三八年)の大阪市大正区の木造二階建て二戸建ての空き家の売却を考えている。建物付の土地で売却するのか、建物を解体して土地のみで売却するのが悩んでいる、という相談がありました。この相談は、大阪市住まい公社から当会の電話相談を紹介されたそうです。

電話だけのやり取りで判断するのは非常に難しく、築年数から考えても、建物を残すかどうかの判断が難しいと思います。本件は旧耐震以前の建物ということもあり、耐震診断をしてから考えるという方が妥当だと思われます。

急に空き家になった、管理はどうする？

祖母が亡くなり空き家になった、東大阪市の築五〇年程度の二戸建ての木造住宅についての相談がありました。中には家具が残ったまま

で、とりあえず管理をお願いできるところを紹介してもらえないかという相談でした。市の広報誌を見て電話をしたとのこと。空き家になつてまだ一年で、これからどうしたらいいか思案していたところだったようです。

空き家問題で「管理だけをする」というアドバイスは専門家からはしないでしょう。相談者が管理だけを望んだ場合の適切なアドバイスは用意がありません。とはいえ、空き家にはこのような選択肢も十分に考えられます。電話でのアドバイスは、管理もやつているような不動産業者(できれば地元で信頼できるところ)に相談してはどうか、にとどまりました。

空き家をどうしたらいいかわからない

市役所に空き家対策について相談したら、建築士会の電話相談を紹介されて電話した。所有している空き家についてどうしたらいいか教えて欲しい。また、「空き家等対策特別措置法(正式名称…空家等対策の推進に関する特別措置法)」は必要なのか、と問い合わせがありました。

非常に漠然とした相談で、制度にまでコメントを求められています。まずは適切に管理ができる状態かどうかを判断すること、例えば建物調査や耐震診断などが必要だと思います。法では、行政は適切に管理されていない空き家を「特定空き家」に指定することができ、特定空き家に対して、行政から助言・指導・勧告・命令あるいは罰金や行政代執行を行うことができるようになります。行政でも耐震診断などの案内はできるはずなのですが…。

相談者の求めていることに応えられているか？

空き家問題はすぐには解決しません。きめ細かな対応が必要です。相談者の不安を解消し、幅広いニーズに応えることができる体制づくりが大切だと感じました。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

ど派手な意匠で昭和を体現する大阪ミナミのレジャービルといえば「味園ビル」が思い浮かぶ。このビルの誕生には、オーナー兼設計者と言える志井銀次郎氏の存在が欠かせない。ビルは志井氏が建築を構想し、社内にて工作部を設けて直営方式で建設が進められた。建築規模は地下一階・地上五階建て。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造で昭和三〇年(一九五五年)に総合レジャービルとして竣工した。

当時、志井氏の「ユニバース」宇宙」を実現したビルは宴会場、ホテル、キャバレー、マッサージルーム、飲食店などが営業しており、外観を彩る派手な看板や内部の豪華絢爛な装飾は、高度経済成長の勢いを感じさせる。昭和三七(一九六二年)にはアメリカのグラフィック誌「Time」にて日本最大のクラブとして紹介され、テレビでお馴染みの歌手もここで歌っていた。

その後、幾度にも渡る改装を受けテナントも入れ替わってはいるが、平成二七年(二〇一五年)にここを舞台とした映画「味園ユニバース」も公開され、人々の心を惹きつける魅力は今も失われてはいない。

建築人

12
2016

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
委員長	飯田英二		
編集人代表	荒木公樹		
編集人	河合哲夫	黒川祐樹	
	中江 哲	橋本頼幸	
	丸子勇人	牧野隆義	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		



toccata



toccata (トッカータ) の語源は、イタリア語の *toccare* = ふれる
 操作はタッチパネルに「ふれる」だけ 吐水時はライトで手元を照らします
www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所

SANEI



元斜面の家 畑友洋・徳永慎也／畑友洋建築設計事務所

神戸市の斜面に建つ住宅。敷地周辺は海と山を結ぶ南向き斜面であり、海風と陸風が交互に吹く、風通しの良い光と緑に満ちた地形であった。しかし現在では、強引な造成の後、住居が光や風を奪い合うように斜面に競うようにせり出す開発が進行しており、そんな建ち方そのものが風景となってしまった。

この建築は、斜面にせり出した古屋の解体から始まった。解体に際し土留めを兼ねた既存建物のRC基礎を強引に解体せず、斜面の一部と位置づけ新しい住居に継承した。敷地中心に広域の斜面地断面を参照することで、この既存建築基礎を最下段とし、斜面の地勢に逆らわない階段状に連なる斜面地ならではの空間構成が浮き上がった。それはまるで、造成前の地形を建築により復元するような行為であり、隣家の日射を妨げず本住空間にも全ての層に豊かな日射を導くことが可能となった。

また、この地域は強風が斜面に沿って吹く地域であり、設計時に現地で屋根のレベルと傾きをモックアップにより検討した結果、斜面の上下の風をうまくつなぎ、内部に緩やかな風を導く屋根のラインは、ほぼ元々の斜面の勾配をなぞる稜線のラインと一致することが明らかとなった。

結果、新たな住空間は開発前の元々の斜面の稜線をなぞる屋根の下、斜面に住む他の動物と同様、奥の巣穴から表の斜面を行き来し、斜面を昇り降りしながら暮らすというイメージに結びついた。断絶していた斜面をもう一度復元し、住居を含む斜面の上下隣地にも風をつなぎ、光を受け流す。まさに斜面を復元するような、斜面に寄り添うこの建築が、斜面に集まって住むための一つの作法のようなものに通じていると信じていた。

撮影：矢野紀行 第60回大阪建築コンクール渡辺節賞受賞作品

■プロフィール

1978年 兵庫県生まれ
2003年 京都大学大学院工学研究科修士
2003年～ 高松伸建築設計事務所
2005年 畑友洋建築設計事務所設立
現在、京都大学、近畿大学、神戸芸術
工科大学非常勤講師
2011年 JIA第6回関西建築家新人賞
2012年 WAN House of the Year 2011受賞
2012年 BOKA ARTIST RESIDENCE
COMPETITION first prize
2015年 第3回京都建築賞優秀賞他

■建物データ

設計：畑友洋建築設計事務所
構造：tmsd萬田隆構造設計事務所
施工：株式会社コハツ
所在地：神戸市
用途：個人住宅
竣工：2015年9月
構造規模：木造在来工法・RCベタ基礎
地上2階(塔屋階付)
敷地面積：176.54㎡
建築面積：93.51㎡
延床面積：123.93㎡

